

「私（イエス様）の名によって私に何かを願うならば、私がかねえてあげよう。」(ヨハネによる福音書14章14節)

○『まいにち ひふみん』—加藤一二三さんの信仰—

『こころのとも』のクリスマス号の表紙が加藤一二三さんでしたので興味を引かれた方が多いかと思えます。一二三さんは熱心なカトリック信者で、結婚前のカップルに結婚観に関する聖書講話をする奉仕をされるほどに敬虔なクリスチャンと聞いています。先日テレビでお見かけしたときはクリスマスツリーを前に突然レポーターに許可を求めて「きよしこの夜」を独唱していました。押しつけがましくなく、ユーモア豊かで、見る人の好意を得る形でキリスト教の話をする素敵なお方です。我が家ではそんな彼の名言が詰まった「日めくりカレンダー」を購入しました。そこには「努力+祈りで壁を超える」と題して次のようにありました。「20代のころ、大山名人や升田名人にまったく勝てず、大きな壁にぶつかりました。『このままでは自分の棋士人生は行き詰まってしまう』と悩んでいたとき、ふと思いました。「名人たちの指す将棋のように“100点の手”があるなら、人生にも“絶対に幸せになれる100点の手”があるに違いない」と。私にとってその答えがキリスト教でした。祈りを捧げることで私の将棋は飛躍しました。8の力を祈りによって10にする。祈りには人生を切り開く力があると思います」。ウィキペディアによれば彼は「一流として必要なことを『行き詰まりの打開』と答えているようで「30代の時に行き詰まりを経験したが『精神的な力を得て』それを克服することでその後繋がつた」とありました。私ごとですが今年度、長女が小学校に上がったことで親としての負担が大きく減りました。それで幼児期の子育ては「行き詰まり」の連続であり、本当に大変であったことを再認識しています。僕も「祈り」によって心が守られたことがたくさんあります。心のモヤモヤを神さまに打ち明けると思いのほかすっきりするものです。また、食事の際に子どもがしてくれた祈りに助けられたことが何度もあります。子どもたちは幼稚園でお祈りの仕方を学んでいます。「お母さんの心が元気になるようにお祈りしてくれる？」とお願いすればきっと祈ってくれることでしょう。子育てに行き詰まりを感じたらどうぞ一度お試しください。きっと心が暖かくなることでしょう。

